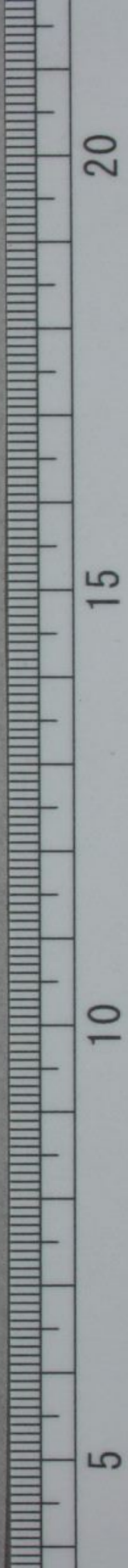


Handwritten title in cursive script, possibly reading 'Siddhanta'.

~ 5
2127



皇朝通志



明治三十四年四月二十四日
藤野 惠
氏寄贈

門利5
號 2.127
卷

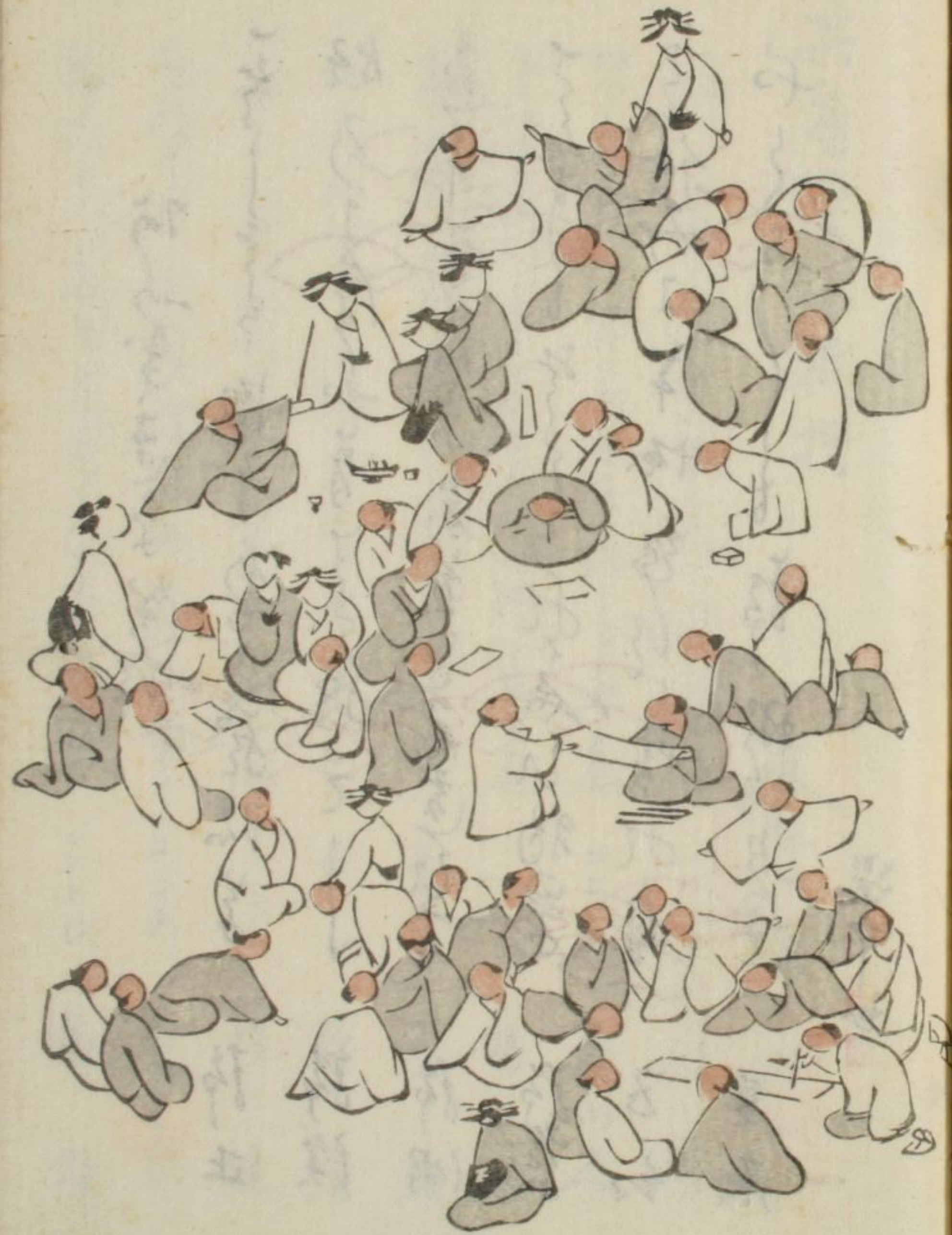
心
生
月

福至美



福
至

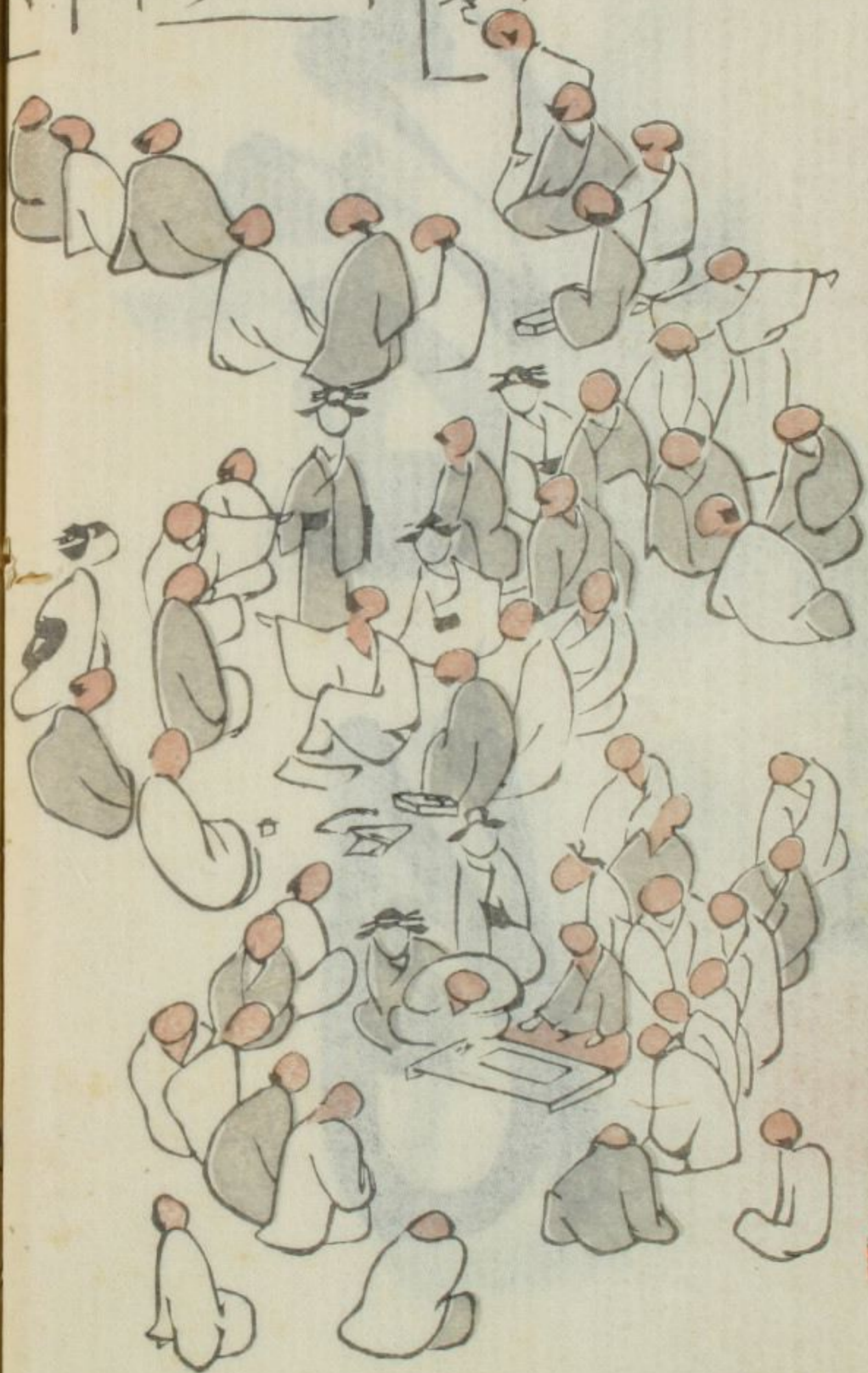




豊後
利家
号共

開
卷

句彼扇
分奈運



高
圃


阿久美子(あづみこ)の歌

~~~~~ 懐くあはれ 藤原子

藤正

~~~~~ 乃し存ふ青き心 藤原子

藤原

~~~~~ 通ふ事なく 留小泉並しとらん遠くにて

藤湖

~~~~~ ちかきも 花 ちかきも 花の子

藤花

~~~~~ ちかきも 花 ちかきも 花の月

五知

~~~~~ ちかきも 花 ちかきも 花の心

聖辰

崇中 皇

其角(そのかく)の書水機撰



秀造(ひでつくり)十印

藤野(ふじの)潔(けつ)氏遺愛(いあい)之記

~~~~~ 西の光(にしのみつ)も 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も コヒナタ 菊山人

~~~~~ ちかきも 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も 梅(うめ) 寺(てら)

~~~~~ ちかきも 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も 泉(いずみ)キミタ ちかき

~~~~~ 曲(まが)り 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も 扇(あふぎ)レ 静(しず) 溪(たに)

~~~~~ ちかきも 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も 杉(すぎ) 標(しるし)

~~~~~ ちかきも 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も カンタ ちかき

~~~~~ ちかきも 花(はな)も 水(みづ)も 心(こころ)も 扇(あふぎ)も コトレ 英(えい) 雅(みやび)



春の風をしのぎて  
 花の香をたぐひて  
 川のほとり  
 静かなる  
 夕陽の影  
 月夜の光  
 春の風をしのぎて  
 花の香をたぐひて  
 川のほとり  
 静かなる  
 夕陽の影  
 月夜の光

再考

舟の音は水に響き  
 鳥の聲は空に響き  
 風の音は木に響き  
 雨の音は石に響き  
 雪の音は山に響き  
 雷の音は雲に響き  
 虹の音は空に響き  
 月の音は夜に響き  
 星の音は空に響き  
 花の音は春に響き  
 鳥の音は空に響き  
 川の音は水に響き  
 静かなる  
 夕陽の影  
 月夜の光

古白雲吳仙撰

春遊

春の風をしのぎて  
 花の香をたぐひて  
 川のほとり  
 静かなる  
 夕陽の影  
 月夜の光  
 春の風をしのぎて  
 花の香をたぐひて  
 川のほとり  
 静かなる  
 夕陽の影  
 月夜の光















あゆ中しゆきけりし雪の使節ハニ所  
春を待たぬの娘も〜 秋の杵  
梅もや 春内あやれ 柳の  
静歌女

再考し七節

流る世や春のうらもを〜 静  
梅

あき流の浮園もあてゑるや 梅  
梅

解神の歌〜 梅別 長あてりぬ  
梅

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家

哉 吟

鬼をふかふゆり〜 梅 如を物に業  
西の家

鯛の浮や〜 梅 如を物に業  
西の家

三界よあはれ〜 梅 如を物に業  
西の家

早稲穂度白頭撰

昔の文

あき流の世〜 梅 如を物に業  
西の家  
溪 水







却より早より汗流や汗の使  
 めく網  
 粥杖の杖を指し我龍水く  
 扇レ  
 鷹の巢也 ちまひのつらぬ 金鹿  
 ササン  
 國杖

早々林麓北岡橋

再考

杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 猿心女  
 急るるを流るる 樽つらみ  
 牛と六  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 純こ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 杉生

破水もや新酒の流るる 樽つらみ  
 杉生  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 泉キミ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 マイバニ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 泉ハタタ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 ヨツヤ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 西の家  
 三果もや新酒の流るる 樽つらみ  
 全  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 マイバニ  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ  
 一  
 杉もや新酒の流るる 樽つらみ















鬼打やアの勢もあつてさ  
多丁 聖  
勢との勢もあつてさ  
ヨツヤ 古 民  
多勢もあつてさ  
勢もあつてさ

星月菴言外抄

香色

余所の勢もあつてさ  
一 毒 十 万  
勢もあつてさ  
カサイ  
勢もあつてさ  
シツカレ  
毒 一 毒 十 万  
勢もあつてさ

おつてさ  
ホソ  
孤 山

香色

おつてさ  
イロキツミ  
勢もあつてさ  
ハマ、ツ  
勢もあつてさ  
上毛大前テラ  
勢もあつてさ

香色

おつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ  
勢もあつてさ















をりしあふるをのりまうや金剛  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
湯の熱うるをのりまうや金剛  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた

ミスロ町  
ジボウ丁  
ニシク

梅 素 一 中 富 全 野 矢 有  
鈴 拖 松 吉 水 水 尖 車 修

あまのりしあふるをのりまうや金剛  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた  
あわりののりまうかちをたつた

下モラマイ  
マイバシ  
ホンヤ

志のり  
重 徳 知 足 長 華 華 麻 心 人 河 仙 松 彦



旅をゆく一編のやとるる在

わらうゆき早に揺りかき鍋牛

かきかきよき舞鶴や田舎の口

あしもつもなげねのやうなへ

本 納

枕 子

くまや

葉 盛

十二世  
花垣本群正撰

春の風

日のぼるせよとささるる風もどきみ水

春のあけふくせよとささるる

灯よとささるる風もどきみ水

下六丁

月 琴 堂

千 均

フカ川

折 江

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あけふの風もどきみ水

あ 月

揺 扇

都 掬

一 夏

芝 系

森 宿

急 友

雪の 系

英 雅

風 風











何〜のあ〜の〜と〜の〜はむの〜  
ひの〜や〜東端を〜と〜の〜袖  
〜の〜の〜と〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜

奇 月  
芝 梁  
痒 故  
夢 辰  
祇 々  
少 肉  
芝 糸  
赤 生  
西 屋  
西 子 赤

何〜のあ〜の〜と〜の〜はむの〜  
ひの〜や〜東端を〜と〜の〜袖  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜  
〜の〜の〜の〜

長 雪  
武 佐  
芝 梁  
痒 故  
夢 辰  
少 肉  
芝 糸  
赤 生  
西 屋  
西 子 赤

イチガヤ  
マコトレ  
レイナレ



感吟

|                |     |     |
|----------------|-----|-----|
| 晴くさうよ一字からぬかけしる | ハマシ | むまを |
| 穂らつるぬきやももる中ねる  | 市   | 柳   |
| 糸あふれにけりわよまの時   | 呉   | 雪   |
| 早のなをわくくもる花あふの極 | 二   | 妙   |
| すむいりりりりりりりりりりり | 翠   | 笑   |
| 田の秋や穂のまわりりりりりり | 中   | 六   |
| ねらおの穂つりりりりりりり  | 一   | 富   |
| あきらや穂りりりりりりりりり | 森   | 峻   |
| 静々のひと粒もりりりりりりり | 水   | 流   |

|                 |     |      |   |     |   |   |
|-----------------|-----|------|---|-----|---|---|
| 山あやあらりりりりりりりり   | 鬼ハ外 | コミトレ | 部 | 友   |   |   |
| あきらやあきらりりりりりりりり | ま   | あ    | 内 | イツミ | 川 | 寿 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |
| あきらやあきらりりりりりりりり | あ   | あ    | あ | あ   | あ | あ |

軸

|                 |      |     |
|-----------------|------|-----|
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |
| あきらやあきらりりりりりりりり | コビナタ | 萬山人 |

集者

十 万







のさしは早しと申す也 ねんききり 下六丁  
筆終て早しと申す 腰伸より 田植なり  
参ゆり也 世の終りて 輪のせり 林  
去り也 ともたき 藤のさる 柳  
すい水と 早の影あり 子菊 西  
もろもろ せせり 矢も 也 米  
美~~~~ 風の流る 花はら ぬき  
多きもの ちかき ちかき 事 ちかき  
も鼓はる 梅も 也 伝 ちかき

扇連

菊 流 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友

いの修や ちかき ちかき ぬき ちかき  
梅は 月さし ちかき ちかき ちかき  
扇は ちかき ちかき ちかき ちかき  
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき  
梅は ちかき ちかき ちかき ちかき  
す~~~~ ちかき ちかき ちかき ちかき  
つまね ちかき ちかき ちかき ちかき  
若るもの ちかき ちかき ちかき ちかき  
ちかき 挿~~~~ ちかき ちかき ちかき  
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

孤 舟 系  
菊 流 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友  
花 舟 友







河津のあまのこゝろに柳

吳仙

春のささげの影のあまのこゝろに

永機

○

一葉のこゝろに柳の影のあまのこゝろに

月吟書老云

近代のあまのこゝろに柳の影のあまのこゝろに

詢葉翁老云

○

春のささげの影のあまのこゝろに

柳正

先陣花下七世時宗居士大徳のあまのこゝろに

春のささげの影のあまのこゝろに

批点のあまのこゝろに

春のささげの影のあまのこゝろに

春のささげの影のあまのこゝろに

近代書斎書老云  
五扇横書云云

七十三叟

柳阿

天正一書

十二ヨリ  
丸助坊自名 里柳抄撰菊山人

春巻  
其角堂永機撰

地全是册

番柳林翁語法友翁漢柳外

丹月枝家月英雅と燕益人

人全丸助坊

喜喜抄及人トク抄書持持



夏卷

太白堂吳仙撰

地也 蘇翁

天也 一秋

人也 花谷

母マ  
芝樂 夢屋 寺の家 母九 静翁  
写水 乙美 西の家 静翁 作生  
写水 夢屋 寺の家 静翁 作生  
母マ  
芝樂 夢屋 寺の家 静翁 作生

秋卷

夜雪菴金羅撰

地也 七雨

天也 雪兮

人也 武伯

母マ  
静翁 夢屋 寺の家 静翁 作生  
黄口 雪外 寺の家 静翁 作生  
静翁 夢屋 寺の家 静翁 作生  
十 万 一 萬 知 是 松 葉 翁 人  
母マ  
静翁 夢屋 寺の家 静翁 作生

冬卷

星真菴北年撰

地也 ぬ流

天也 芝果

人也 松系

母マ  
松林 香露 葉翁 几堂 了翁  
酒仙 夢屋 寺の家 静翁 作生  
松林 香露 葉翁 几堂 了翁  
西の家 静翁 作生 静翁 作生  
母マ  
静翁 夢屋 寺の家 静翁 作生

春夏卷

星霜菴白頭撰

地也 中園 秋

天也 光朝

人也 系系

母マ  
寫人 夢屋 寺の家 静翁 作生  
春翁 夢屋 寺の家 静翁 作生  
松鬼 松生 松山 静翁 作生  
西の家 静翁 作生 静翁 作生  
母マ  
静翁 夢屋 寺の家 静翁 作生



秋冬ノ巻

星喜菴北因撰

地中口未屋

人中口達六卷

○也ヨリ  
定里世園松代西の森三石  
隣水石の森芝罘一才西の森  
常子母知是寸六十万金  
長子母石の家延く十八儿堂  
○○マテ

春ノ巻

星華園静雅撰

天中千坊

地中二連

人中勝雪

也ヨリ也マテ

多能勝雪吳松一高  
喜松ぬ水自松  
安松多誠席

夏ノ巻

星松菴静鶴撰

天中七の

地中夢衣

人中七之雅

也ヨリ也マテ

藤子吳松 毎色旭松  
松林喜安 樹林  
中けや芝罘 二州

秋ノ巻

星光菴静岱撰

天中黄口

地中古民

人中那多望

也ヨリ也マテ

夢衣 左坊 汎席 孤舟  
誤身 中子 手物  
思遠 義逸 子高

冬ノ巻

星月菴言外撰

天中紫竹

地中夢衣

人中喜笑

也ヨリ也マテ

一の好 孫女 東履 十万  
切松 掛孫 一袋  
吳柏 孤山 森扇

四季通巻

詢堯齋老公御評

天 一秋

三二也中ヨリ

眠席 自序重 孤舟家

十万 小慈 炭調

二州 孤舟

七二五五マテ

多子 夢衣



四季通卷

月琴堂老公御評

地五〇辰木納

人〇廿〇月水

天女五〇華衣

五〇〇ヨリ

柳外 松林 寛里

水名 桑松 杉標

寺名 無名

西の家 松原

九〇五〇ヨリ

五〇中ヨリ

二州 寺名 六承屋 五子 西の家

長考 水澤 武伯 諱 笑 全

むまき 寺名 一〇 夏 杉標 芝標

諱 笑 家 月 古 新 寺 日 家 母

五〇五〇ヨリ

四季通卷

花の承梅阿静正撰

地〇五〇中 杉

天女〇五〇 華衣

人〇五〇〇 三 船 子

明治十五年 初夏



